

玉野市民会館計画 2022

武威野美術大学修士課程造形研究科デザイン専攻建築コース 布施スタジオ M2 大関 龍一

01_敷地データ

計画地：岡山県玉野市宇野1丁目

玉野市は岡山県の南端に位置し、瀬戸内海の美しい自然に恵まれた風光明媚で温暖な気候の港町である。市の中心部にある宇野港は、かつては瀬戸大橋の開通まで宇野・高松を結ぶ宇高連絡船の発着地、また東京・宇野を結ぶブルートレイン瀬戸の発着点となるなど、本州と四国を結ぶ海上交通の要所として知られている。現在も瀬戸内海の島々（直島・豊島・小豆島）への航路がある瀬戸内のターミナルである。しかしフェリーの需要が減少する中で2019年12月に宇野・高松の宇高航路は休止中となっている。

02_瀬戸内国際芸術祭のまち

瀬戸内国際芸術祭の出発点として多くの観光客が訪れる

宇野港は3年に一度開催される瀬戸内国際芸術祭の玄関口となる主要な港である。国内外からの約100万人が訪れるが、会場となる島への入島経路のデータを見ると香川県側からが75%なのに対し岡山県側からが18%と大きな差がある。高松空港のLCC就航による交通の利便性向上などがその要因の一つとして挙げられる。また、宿泊地の割合を見ると高松市内が50%、岡山県が6%と大きな課題を抱えている。芸術祭による地域活性の可能性が見込まれる中、経済的な効果をあげる受け皿がそもそも整っていないのが現状である。



現在の宇野港

03_玉野市との関わり

① UNOICHI 海が見える港のマルシェ

玉野市の交通拠点である宇野港には国内外から年15隻前後の豪華客船が入港する。その豪華客船の乗船客を歓迎、交流するイベントが宇野港で開催されていた。そのイベントの充実を図るために実行委員長である小倉理史氏が「UNOICHI 港がみえるマルシェ」を設立し、地元の高校生を主体としてマルシェイベントを開催していた。

海が見える「えんがわ」

このプロジェクトはマルシェイベントの休憩スペースの設計である。「浮いた屋根の下でんびり海を眺めたい」という仲間との共通認識の中で、テントの幅や高さ、座り方についてスタディを始めた。その過程でコンセプトを「海のえんがわ」とし、移動、解体の容易な持ち運び式の緑側を作ることにした。制作において地元の高校生や武威美の学生が協力し、イベント開催当日の運営、会場管理を行うことで地元の人々との交流を図るなど、地元のコミュニティへ入り込むことで関係人口として玉野市の街について主体的に考えるきっかけとなった。この活動の経験を元に、その後の建築の設計提案やワークショップイベントの開催へと繋げていったのだが、そもそも UNOICHI も一人旅で建築を見て回っていた時に声をかけた方が実行委員長だったというのが経緯で、直感的にこの場所を自分が変えたいと思っていたのかもしれない。



「えんがわ」(2018)



山陽新聞玉野版 (2018/10/18)

04_宇野港フェリーターミナル計画 2020

瀬戸内海の玄関口としての新たなターミナルの設計提案

岡山県の玉野市にある宇野港は1909年（明治42年）に竣工し1988年（昭和63年）に完成した瀬戸大橋の開通に伴う宇高連絡船廃止する。その後も宇高航路は四国フェリーにより運行されてきたが2019年12月に運行が休止となった。宇野港は109年にわたり本州と四国の交通の結節点として役割を担ってきたが、事実上その歴史に幕を閉じた。

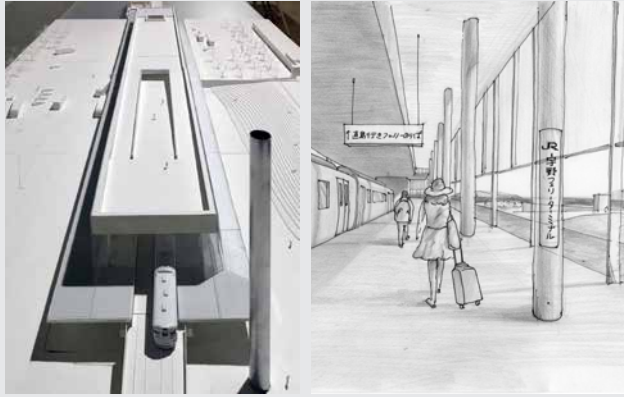
宇野港は本州側の瀬戸内海の島々への玄関口であり、多くの人々が宇野駅を経由し出港して行く。しかし鉄道とフェリーの乗り換えの利便性が人々を急かすため、皆一同に船乗り場へと駆ける。そのため宇野港の街並みやその魅力に気づく間もなく乗船し、出港してしまう。またその導線は屋根もない駐車場の道を徒歩で移動せざるを得ず、雨天時は足元も悪く高齢者や身障者にはハードルが高い。これらの影響もあり、宇野港を経由した人の多くは宇野港の記憶がほとんどないことが多い。乗り換えのアクセス導線が悪く、港町の風景を眺める間もなく出港してしまう現状に対し、魅力ある瀬戸内海の島々へ向かう最終経路地、つまり「瀬戸内海へのゲートウェイ」として人々の心を高揚させ、宇野の穏やかな港町を眺めることのできるターミナル空間を設計した。瀬戸内海の風景をうつすガラスの細長いプロポジションを持つボリュームの中に人々の動く姿が見え、船までの導線となる内部空間からは、宇野港の港町の景色が見える。導線を変化させるだけで場所の魅力をより美しく感じさせる役割をこの建築がこなしている。



宇野港フェリーターミナル計画 2020 外観パース



宇野港フェリーターミナル計画 2020 展示風景



外観

内観

05_玉野市民会館計画 2022

新しい玉野市民会館を考える

2019年12月に四国汽船の宇野港・高松港航路フェリーが運行休止、2020年3月に旧玉野市民会館が閉館となった。また、昨今は玉野に中核拠点を置く造船事業の大幅な縮小による生き残りを図るなど、宇野港周辺に暮らす人々にとって自身のまちの経済的・心理的な拠り所が失われつつあると言える。

まずは具体的に提案ができる市民会館の建築と、その運用に係るソフト面の構想を練るために、「リボンの会」の斉藤氏、東氏、青井氏のご厚意で私の発表の場とワークショップ開催の機会を設けていただき、市民の心の拠り所となる日常的に利用したくなる市民会館の理想像について議論することになった。

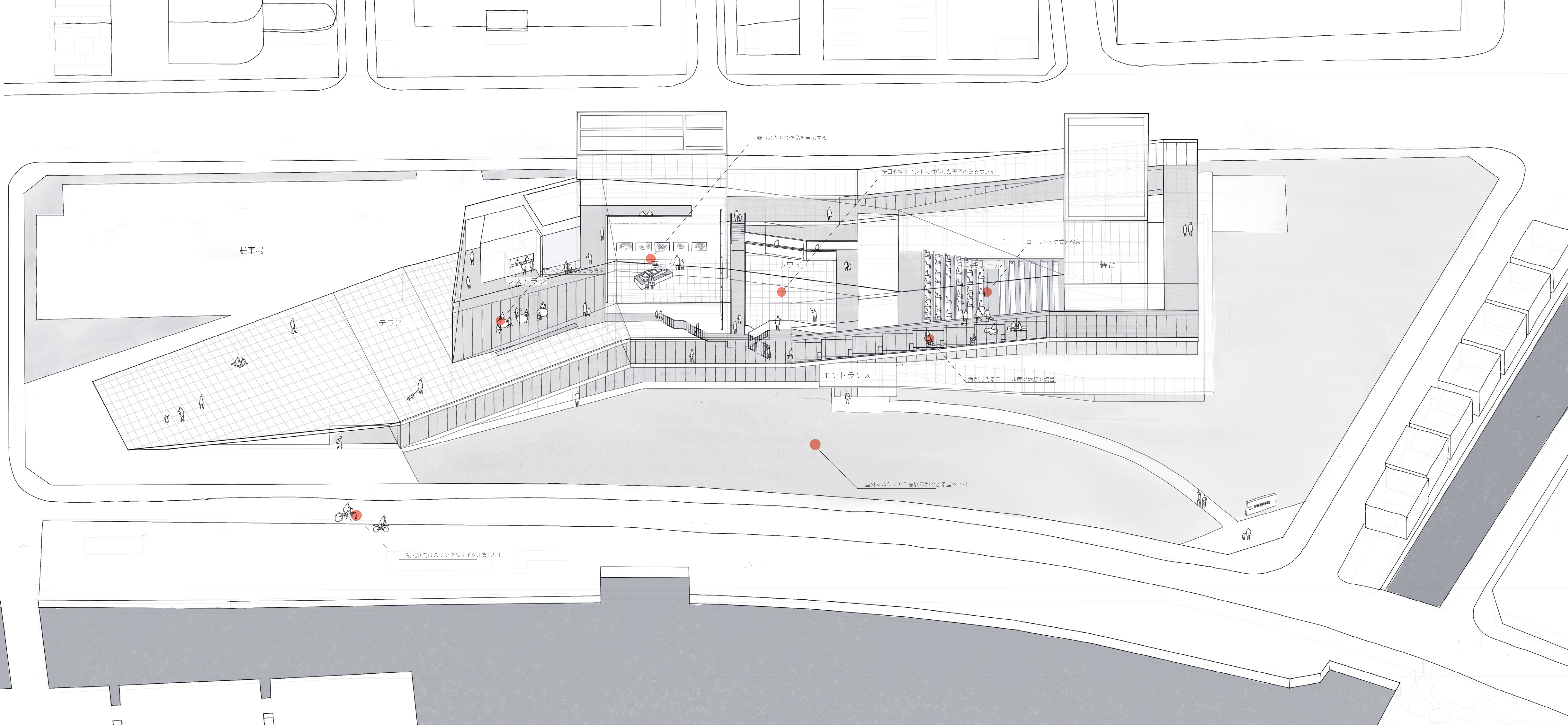
2020年の9、10、11月と3回にわたる玉野市民会館を考えるワークショップ、「リボンワークショップ」は、①意見を出す②イメージする③発表する、の3部構成で開催され、地元の高校生からお年寄りまで広い年齢層の市民が参加された。市民の理想の市民会館は？という問いをワークショップで投げかけてみると、とても明快的な回答が返ってきた。「海が見えるホール」、「船を改造して作った市民会館」、「海岸に舞台」などが挙げられた。今回のワークショップではごく一部の市民であるが、その中でも多くの方が玉野の海を活かした空間を求めていることがわかった。



ワークショップポスター



山陽新聞玉野版 (2020/11/21)



フェリーの風景

① 海が見える市民会館

瀬戸内海を航行するフェリーからの風景は私たちに穏やかな気持ちにさせる大らかさを持つ。市民と理想の市民会館を話し合うと「海が見えるホール」や「船のような市民会館」など宇野港の景観を生かし、象徴性を持つ外観が良いのではないという声が多く上がっていた。計画敷地は港湾合同庁舎や立体駐車場が並ぶ敷地面積が15,741㎡の場所に設定した。「海を眺めに寄ってみる」くらいの気持ちで訪れたい場所を目指すと同時に、その内部空間の導線計画に回遊性、シーンの連続性を創り出すことを目標として設計を始めることになった。

② ビジターセンターとしての市民会館

瀬戸内国際芸術祭が開催されるようになってからは、外国人の観光客が増加した。駅においても観光客へ配慮した観光案内所などが設置されているが、あくまでも形式的なものであるように感じる。JR宇野駅から宇野港フェリーターミナルの歩行導線の延長線上に位置する本計画は、瀬戸内海の島々を周遊する観光客が船や電車の待ち時間を過ごすしたり、市民や旅人同士の出会いや交流のきっかけを生む場所となり得る。瀬戸内海の眺望を見ながらこれからの旅の計画を再確認することで、観光客の記憶の中に宇野港の風景が刻まれることを期待している。



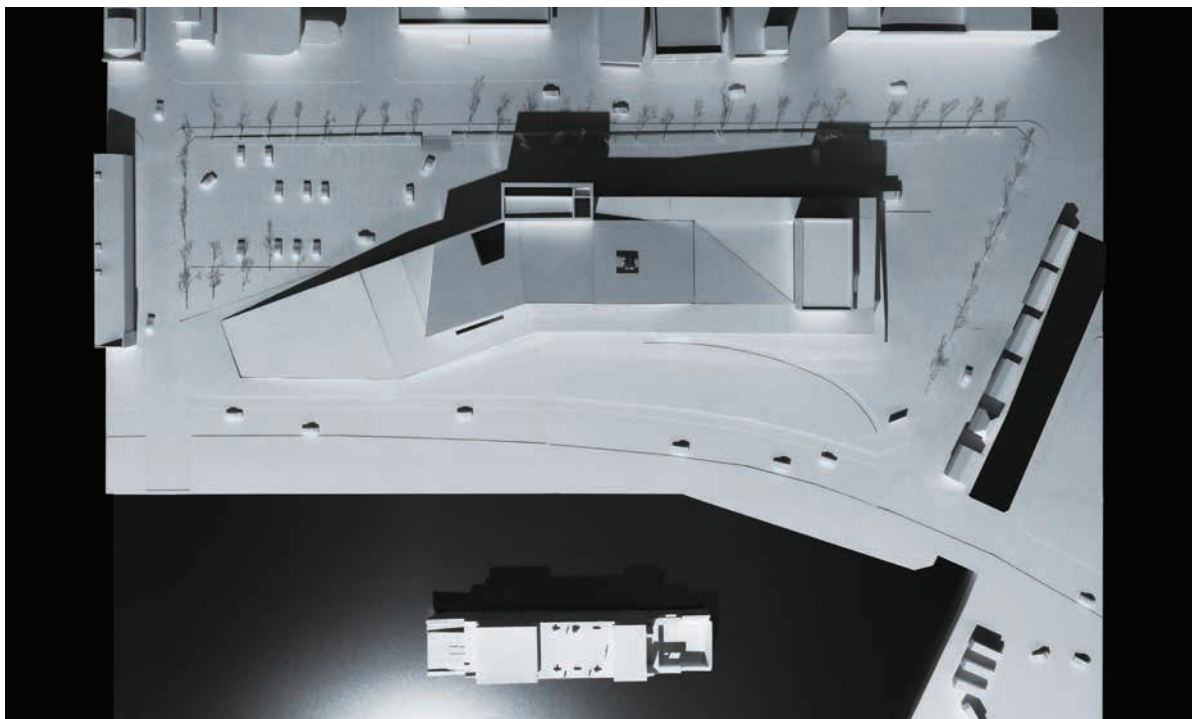
がらんどうと導線のダイアグラム

③ 海と街の風景を回遊するスロープ導線

私が提案するのは船のようなプロポーションを持つ大きな屋根とスロープを持つ建築である。敷地を取り巻く「港からの導線」と「街からの導線」の上にエントランスを設け、双方からの通り抜け導線を設けた。船の甲板の上を想起させる屋上テラスへ上る外部スロープは、港と広場のランドスケープを繋ぐ丘としての役割を持ち、建築の外観のプロポーションを決めている。回廊空間に人々の憩いの場所となる休憩所や読書席などの機能を随所に配置することで、多目的な利用が可能となり、市民による日常的な活動を受け入れることの出来る計画であると考えている。

④ スロープ導線に囲まれた「がらんどう」

市民会館の建築をこの宇野港に作るとしたら、海の風景が常にどこからでも見えるような開放的な空間を目指したいと思った。コンサートや展覧会、マルシェなどの市民活動が行われる空間に閉鎖的な区切りをせず、建築の外周を囲むメイン導線の「スロープによるチューブ状の回廊」を介して外部へ開く構成とした。スロープのスラブは500mmと可能なかぎり薄い表現とした。開口部のガラスにはlow-eのペアガラスを用い、断熱性能の確保とロールカーテンによる遮光が可能となっている。大きな屋根の下の空間に光が入り込むトップライ



のようなシーンの連続が生まれる。多くの来訪者が他者の活動や知識に触れることで刺激を受け、常に新しい出会いが生まれる市民会館となることを目指した。建築の構造は鉄骨造とし、外装にはビーズプラストステンレスを採用した。海や島々の景色を穏やかに反射することで風景の中に溶け込むような建築となる。ファサード側の屋根の傾斜は1,300mm、スロープの傾斜は500mmと可能なかぎり薄い表現とした。開口部のガラスにはlow-eのペアガラスを用い、断熱性能の確保とロールカーテンによる遮光が可能となっている。大きな屋根の下の空間に光が入り込むトップライ



文化芸術 表現する施設必要

リボンの会 ワークショップスタート

機能や場所 奏者、高校生ら意見交換

新市民会館 プラン提案へ

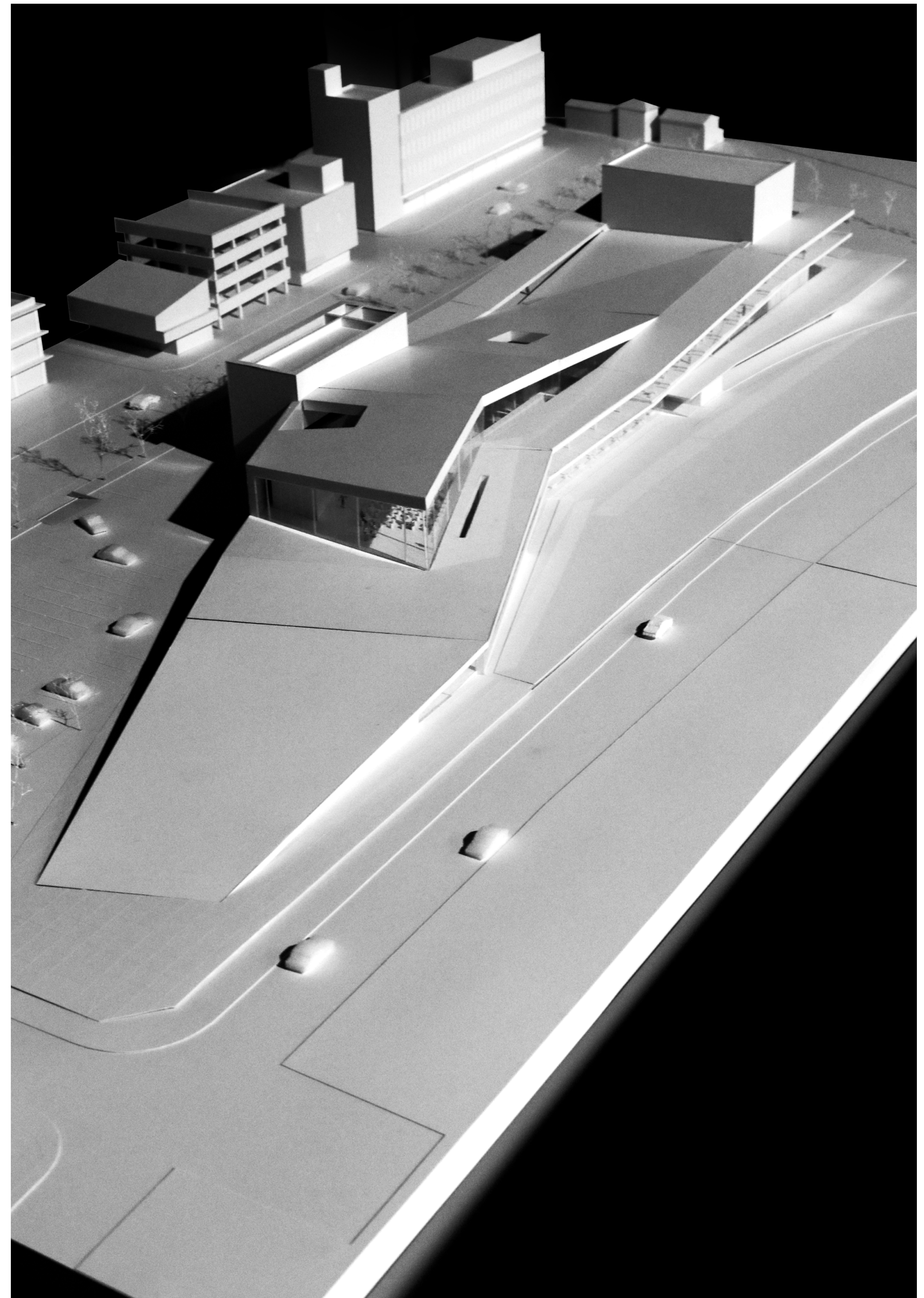
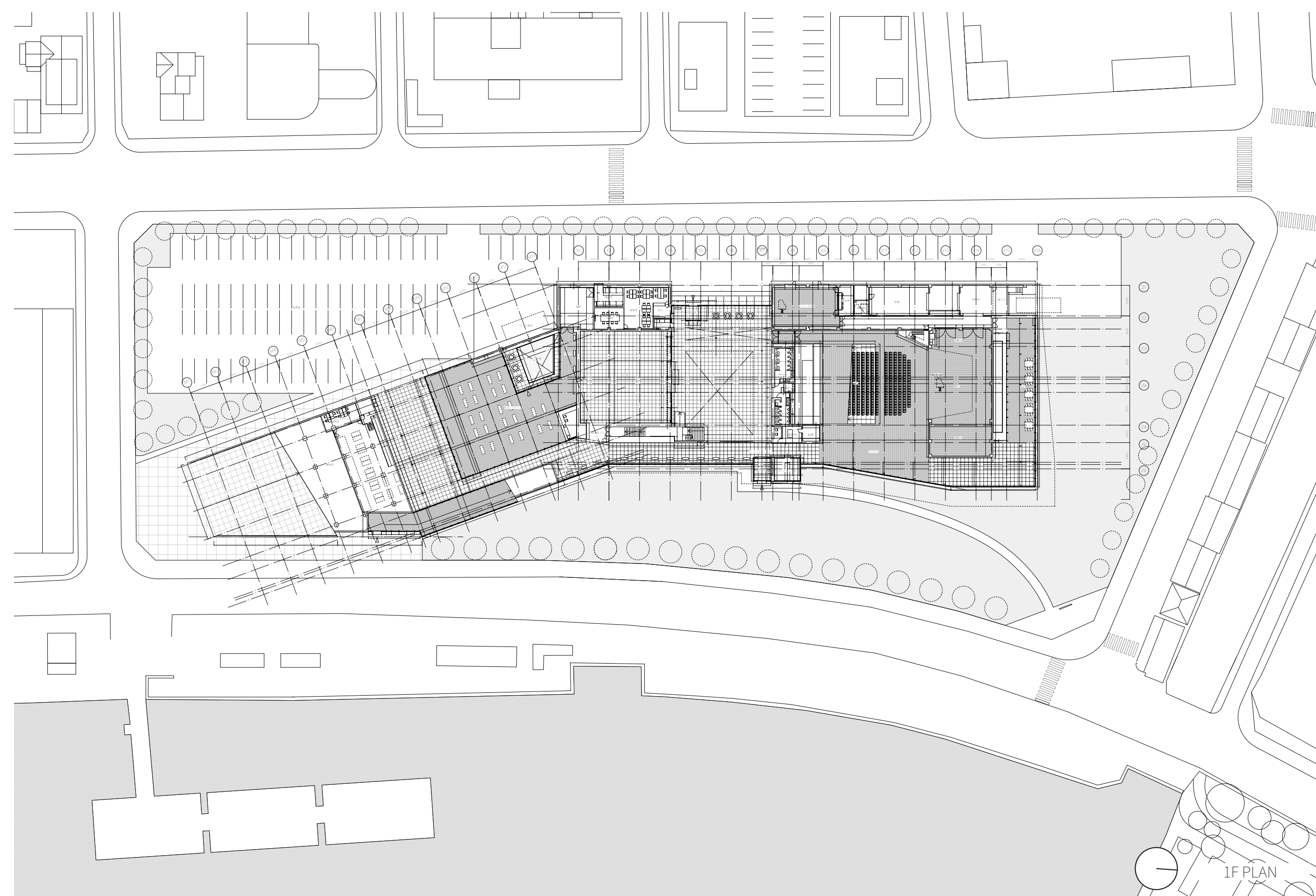
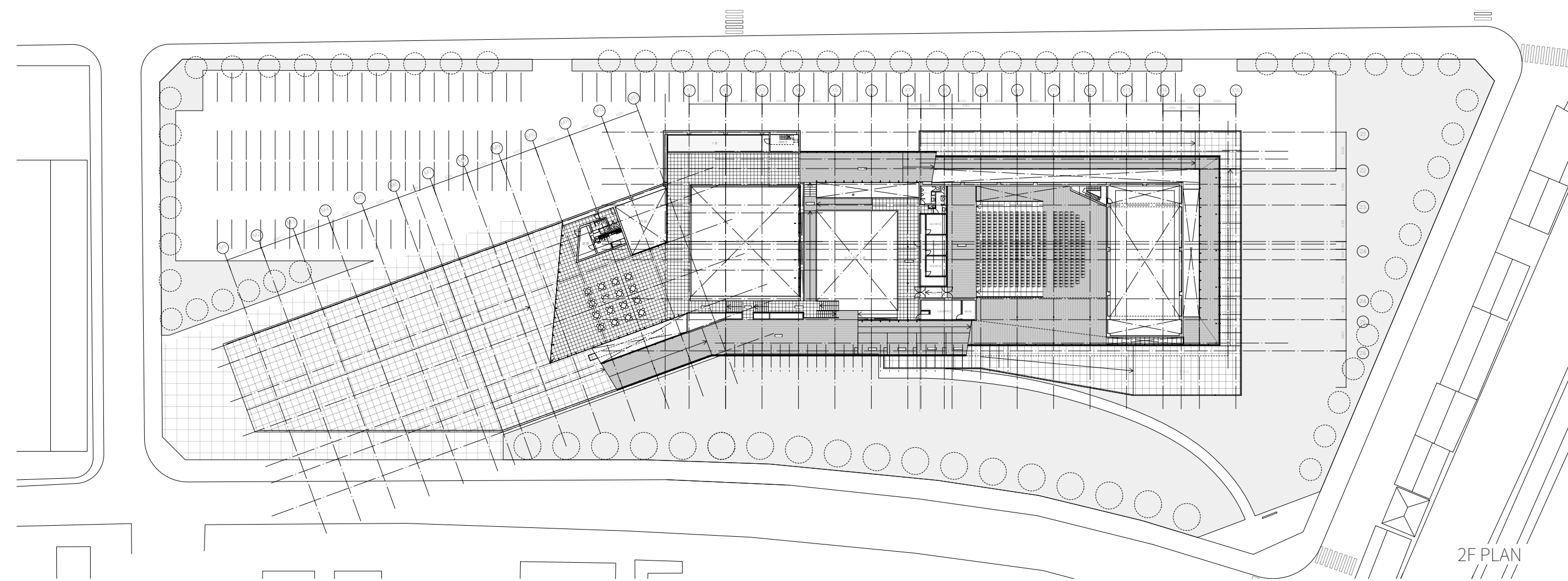
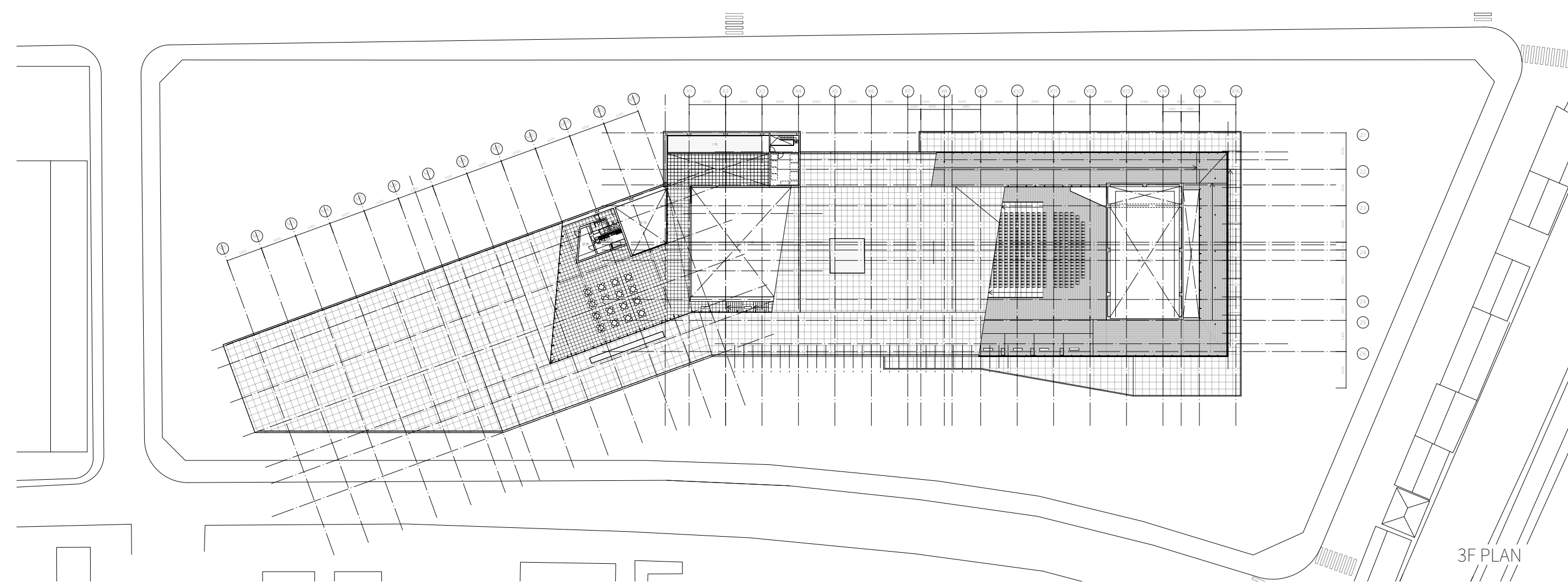
山陽新聞 玉野版 (2020/9/29)

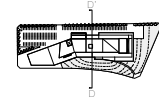
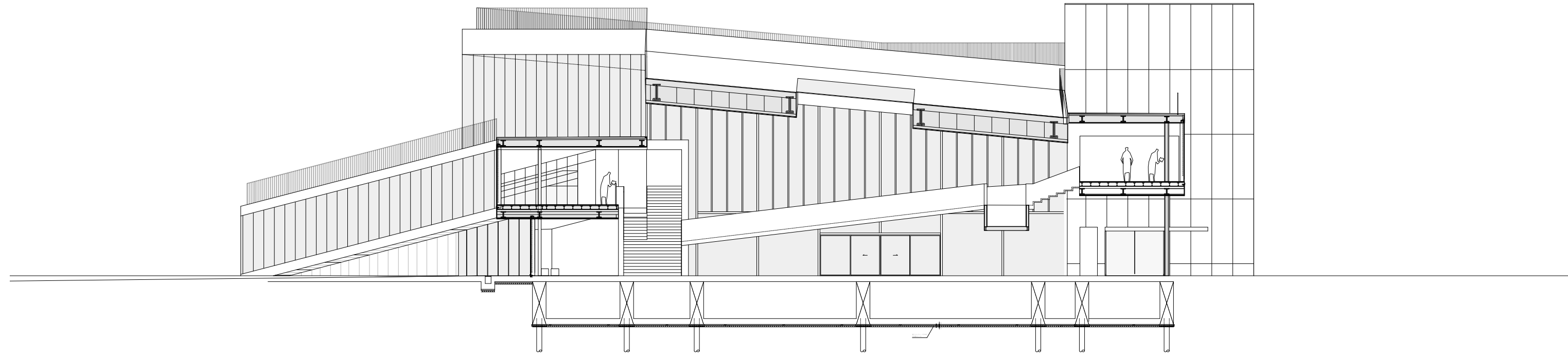
本計画にて提案する市民会館のロゴマーク
瀬戸内海の穏やかな波と、玉野の「玉」の文字をモチーフにデザインした。

TAMANO
Cultural Complex

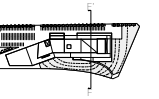
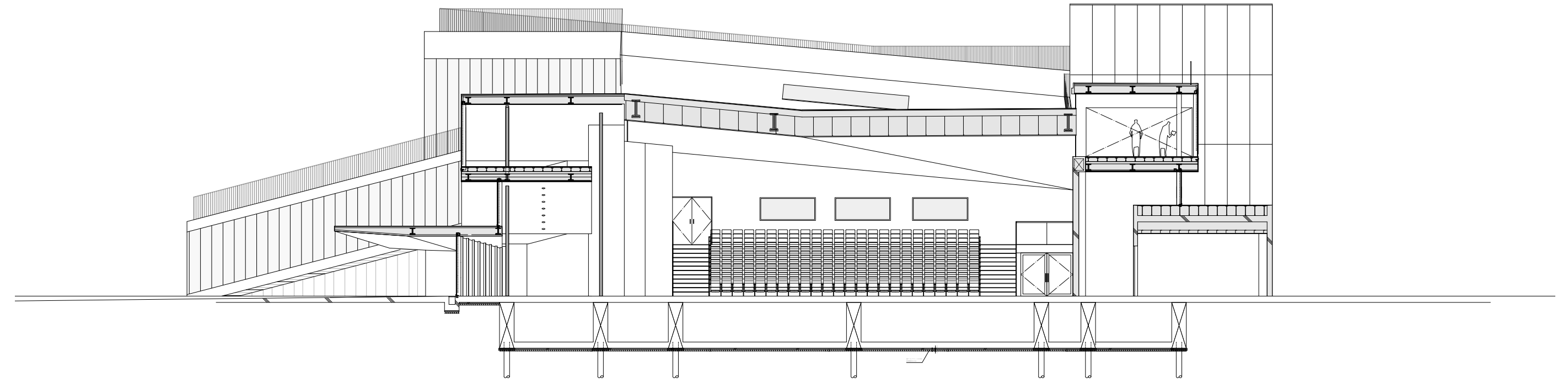
本計画にて提案する市民会館のロゴマーク
瀬戸内海の穏やかな波と、玉野の「玉」の文字をモチーフにデザインした。

・主要用途：市民文化交流拠点（市民会館）
・所在地：岡山県玉野市宇野1丁目8-9
・構造：鉄骨造（一部RC造）
・敷地面積：15,741.11㎡
・建築面積：6,142.24㎡
・延床面積：7,271.48㎡
・階数：地上3階
・最高高さ：19,000mm

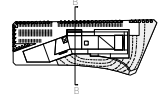
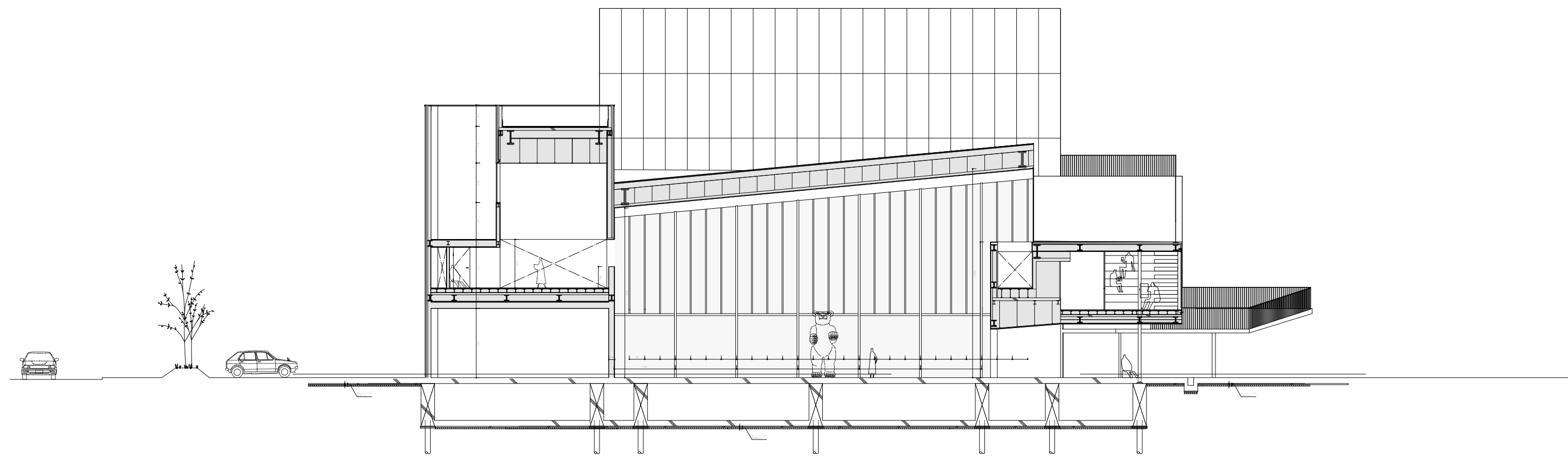




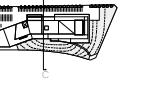
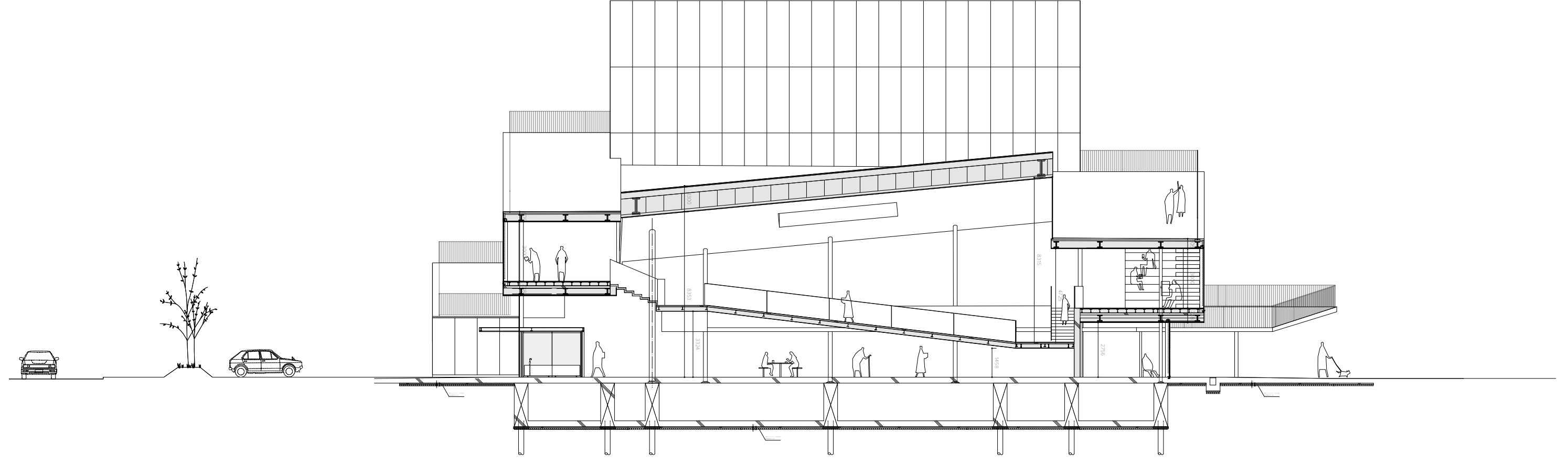
Section D-D' S=1/100



Section F-F' S=1/100



Section B-B' S=1/100



Section C-C' S=1/100

